

專門基礎分野

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
人体の構造と機能 I	講義	1単位	30時間	1年前期	東 華岳
実務経験のある教員による科目					

授業概要

ヒトのからだの構造と機能を知り体系的に理解するため、人体構造を細胞・組織・器官を学ぶ。さらに生体のしくみとその働きについて理解する。また生命現象を理解するための基本的な考え方を修得する。

到達目標

1. 人体構造学とは何かを説明できる。
2. 人体を構成する細胞の構造、それらの集合体である組織や器官の特徴とその構造を説明できる。
3. 骨格系, 筋肉系, 循環器系, 呼吸器系, 消化器系, 神経系の構造を説明できる。
4. 感覚器の構造とその働きを説明できる。
5. 神経の機能を説明できる。
6. 運動における神経系と筋の役割・収縮機構を説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む。

事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	人体の構造と機能の基礎	人体の構造と機能総論	東(華)
2	細胞と組織	細胞の構造、遺伝子と遺伝情報伝達、組織	東(華)
3	神経系①	神経細胞と神経組織	東(華)
4	神経系②	中枢神経系の構造と機能: 脊髄と中脳、橋、延髄	東(華)
5	神経系③	大脳、視床、視床下部、小脳	東(華)
6	神経系④	髄膜と脳室、脳脊髄液の循環、伝導路	東(華)
7	神経系⑤	覚醒と睡眠、末梢神経系の構造と機能: 脊髄神経	東(華)
8	神経系⑥	末梢神経系の構造と機能: 脳神経、自律神経	東(華)
9	運動器①	骨格の構造と機能	東(華)
10	運動器②	関節の構造と機能	東(華)
11	運動器③	骨格筋の構造と機能	東(華)
12	運動器④	骨格筋の収縮機構、収縮の種類と特性	東(華)
13	感覚器	体性感覚 視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚、内臓感覚	東(華)
14	確認テスト	1回～13回の確認テスト・解答・解説	東(華)
15	まとめ	授業の振り返り	山本

評価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 (医学書院)
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
人体の構造と機能Ⅱ	講義	1単位	30時間	1年前期	東 華岳・王 克鏞
実務経験のある教員による科目					

授業概要
循環器系、血液、体液とその調節、泌尿器系、呼吸器系についての人体の構造と機能について理解できるようにする。

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 血液の組成およびそれぞれの働きを理解する。 2. 体液の構成と調節について理解できる。 3. 腎・泌尿器の構造と働きについて理解する。 4. 生体内の物質の流通路としての心臓・血管系の構造とその役割を理解する。 5. 血液循環の構造と機能を理解する。 6. 換気・ガス交換・呼吸調節に関わる呼吸器の構造と機能を理解する。

事前学習・事後学習
<p>事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む。</p> <p>事後学習: 該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする。</p>

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	泌尿器系①	腎臓の構造と機能	王
2	泌尿器系②	尿管、膀胱、尿道の構造と機能	王
3	泌尿器系③	排尿、尿の成分と性状	王
4	体液	体液量、体液の区分と電解質組成、体液の調節	王
5	血液①	血液の組成	王
6	血液②	血液の機能、止血機構、血液型	王
7	循環器①	血液循環の基礎	東(華)
8	循環器②	心臓の構造と機能	東(華)
9	循環器③	全身の動脈の構造と機能	東(華)
10	循環器④	静脈とリンパ系の構造と機能	東(華)
11	呼吸器①	呼吸器総論と上気道の構造と機能	東(華)
12	呼吸器②	下気道、肺、胸膜、縦隔の構造と機能	東(華)
13	呼吸器③	呼吸のメカニズムと呼吸気量	東(華)
14	確認テスト	1回～13回の確認テスト・解答・解説	東(華)
15	まとめ	授業の振り返り	山本

評価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 (医学書院)
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
人体の構造と機能Ⅲ	講義	1単位	30時間	1年前期	東 華岳
実務経験のある教員による科目					

授業概要

消化器系、代謝系、体温調節、内分泌系、生殖器についての人体の構造と機能について学ぶ。消化器系では、摂取した食物がどのように消化吸収し、そして利用されるのか、消化器系の構造と機能を学ぶ。生殖器では、人間の生命の誕生に興味をもち、人の生殖機能についての知識を深め、子孫を残す仕組みについて学ぶ。代謝系、体温調節では生体の情報を感知し、発信しながら生体の環境適応を可能にし、恒常性を維持することを学ぶ。内分泌系では、内分泌系の調節や全身の内分泌腺と内分泌細胞、ホルモン分泌の調節について学ぶ。

到達目標

1. 消化器の構造と機能について理解する。
2. 代謝の構造と機能について理解する。
3. 体温調節について理解することができる。
4. 内分泌腺とホルモンの分泌と作用について理解する。
5. 生体防御機構の機能について理解する。
6. 生殖器の構造と機能について理解する。

事前学習・事後学習

事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む。
事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	代謝系	栄養とエネルギー、物質代謝	東(華)
2	消化器系①	口腔、咽頭、食道、嚥下・咀嚼	東(華)
3	消化器系②	胃、十二指腸の構造と機能	東(華)
4	消化器系③	空腸と回腸の構造と機能、三大栄養素の消化・吸収	東(華)
5	消化器系④	結腸、虫垂、直腸の構造と機能、消化管運動と反射	東(華)
6	消化器系⑤	膵臓、肝臓・胆道の構造と機能	東(華)
7	内分泌①	内分泌腺、内分泌細胞とホルモンの作用機序	東(華)
8	内分泌②	視床下部と下垂体	東(華)
9	内分泌③	甲状腺、副甲状腺、膵島、副腎、その他の内分泌腺	東(華)
10	内分泌④	ホルモン分泌の調節	東(華)
11	生殖器系①	女性、男性の生殖器系の構造と機能	東(華)
12	生殖器系②	受精と発生、成長と老化による変化	東(華)
13	生体防御と体温調節	特異と非特異的生体防御機構、体温とその調節	東(華)
14	確認テスト	1回～13回の確認テスト・解答・解説	東(華)
15	まとめ	授業の振り返り	山本

評価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 (医学書院)
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
人体の構造と機能演習	講義演習	1単位	30時間	1年後期	坂本 智子・伊藤 七重
実務経験のある教員による科目		臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う			

授業概要

人体の構造と機能について既習の知識を確認しながら、人は生活行動(食べる、息をする、出す)を体のどこを使いどのように遂行しているかを学び、探求する。各系統別に分けて考えるのではなく、正常な人間の構造と機能について、看護実践に結び付け理解する。からだの不思議に焦点をあてて知識の整理を行い、調べまとめて発表し共有していくことで、チームで協力することの大切さも学ぶ。

到達目標

1. 皮膚の外側から透視した、内臓の形、位置関係を図示できる。
2. ヒトが生物として生きていくために必要なことは何かを、人の日常生活と関連付けて説明できる。
3. ヒトの生活行動を体がどのように遂行しているのかを理解できる。

事前学習・事後学習

事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む
事後学習: 該当テーマに沿って講義内容をもとに復習・まとめを行う

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	人体の構造と機能演習について	ガイダンス 本科目の概要と進め方、生きているとはどういうことか	坂本
2	日常生活行動「恒常性維持①」	身体の知識と日常生活行動をつなぐ① 恒常性維持のための物質の流通(血液、循環器)	坂本
3	日常生活行動「恒常性維持②」	身体の知識と日常生活行動をつなぐ① 恒常性維持のための調節機構(神経調節、液性調節)	坂本
4	日常生活行動「動く①」	身体の知識と日常生活行動をつなぐ② 「動く」と運動器系の違い	坂本
5	小テスト	恒常性維持・「動く」についての基礎知識の確認	坂本
6	日常生活行動「食べる①」	身体の知識と日常生活行動をつなぐ③ 「食べる」と消化器系の違い①	坂本
7	日常生活行動「食べる②」	身体の知識と日常生活行動をつなぐ③ 「食べる」と消化器系の違い②	坂本
8	日常生活行動「息をする」	身体の知識と日常生活行動をつなぐ④ 「息をする」と呼吸器系の違い	坂本
9	日常生活行動「排泄する①」	身体の知識と日常生活行動をつなぐ⑤ 「排泄する」と腎・泌尿器系の違い	坂本
10	小テスト	「食べる」「息をする」「排泄する」についての基礎知識の確認	坂本
11	からだの不思議①	からだの不思議について調べてまとめる①	伊藤
12	からだの不思議②	からだの不思議について調べてまとめる②	伊藤
13	発表①	からだの不思議についての発表①	伊藤
14	発表②	からだの不思議についての発表②	伊藤
15	発表③	からだの不思議についての発表③	伊藤

評価	演習評価(伊藤:30点)、小テスト(坂本:20点)、客観式試験(坂本:50点)
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 (医学書院)
参考図書等	講義の中で紹介
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
代謝と栄養	講義	1単位	30時間	1年前期	花田 紀子・末永 拓也
実務経験のある教員による科目					

授業概要

「代謝と栄養」では、人体(生物体)の機能を細胞内での物質の変化(代謝)の面から学習し、糖質、脂質、タンパク質の化学と代謝、核酸の化学と代謝、遺伝情報、エネルギー恒常性に関わる調節系について理解できるように学修する。

- 到達目標**
1. 細胞の構造と機能、生体膜の構造と機能について説明できる。
 2. 糖質、脂質、タンパク質、核酸、水と無機質、ビタミンと補酵素について説明できる。
 3. 血液と尿、ホルモンと生理活性物質について説明できる。
 4. 生体内の物質代謝を理解し、その概要を説明できる。
 5. 生体における情報の伝達および遺伝情報について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む。
 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	代謝総論	代謝とは 代謝とその制御	花田
2	生命維持に必要な栄養素の構造と性質①	細胞、糖質、脂質、アミノ酸とたんぱく質	花田
3	生命維持に必要な栄養素の構造と性質②	核酸とヌクレオチド、ビタミン	花田
4	酵素	酵素の役割、酵素の性質、酵素の分類、アイソザイム、臨床診断と酵素	花田
5	糖質代謝①	糖質代謝の概要、解糖のしくみ、グリコーゲンの合成と分解	花田
6	糖質代謝②	ペントースリン酸回路を経る代謝、糖新生	花田
7	糖質代謝③	血糖の調節とホルモン作用	花田
8	確認テスト	確認テスト(1回～7回) 解答・解説	花田
9	脂質代謝①	脂質代謝の役割、脂質の消化・吸収と貯蔵、脂肪酸の分解 ケトン体の代謝、脂肪酸と脂肪の合成	花田
10	脂質代謝②	コレステロールの代謝、リン脂質とエコノサイド、血中リポタンパク質	花田
11	タンパク質とアミノ酸代謝①	タンパク質・アミノ酸の役割と概要、タンパク質の消化と吸収	末永
12	タンパク質とアミノ酸代謝②	アミノ酸の代謝、ヘムの生合成とビリルビンの代謝	末永
13	核酸・ヌクレオチドの代謝	ヌクレオチド代謝の役割、ヌクレオチドの合成、分解	末永
14	確認テスト	確認テスト(9回～12回) 解答・解説	末永
15	まとめ	授業の振り返り	末永

評価	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [2] 生化学(医学書院)
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
病理学	講義	1単位	30時間	1年後期	王 克輔
実務経験のある教員による科目					

授業概要
既習の人体の構造と機能の知識を基に、病気の原因、病気の発症・進展の過程、炎症とは、腫瘍とはなど学び、それらの病変が人体の組織や臓器に現れた場合の健康障害の成り立ちについて学修する。今求められているのは根拠に基づいた医療(EBM)、根拠に基づいた看護実践(EBN)である。病む人を全人的にとらえながら看護するためには医学の基礎である病理学の知識は必須となります。看護の質を担保できるように学修する。

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 心疾患の病理と臨床症状との関係を説明できる。 2. 炎症とは何か、炎症の代表的症状について説明できる。 3. 免疫系のしくみと働きについて説明できる。 4. 代謝異常について説明できる。 5. 老化と死のメカニズムについて説明できる。 6. 遺伝と遺伝子、先天異常について説明できる。 7. 腫瘍の定義について説明できる。

事前学習・事後学習
事前学習: 該当箇所について調べて授業に臨む。 事後学習: 該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	病理学とは	病理学とは、病気の原因、生活習慣病について	王
2	細胞・組織のその障害	細胞・組織の損傷、再生と修復について	王
3	炎症	急性炎症の基本病変について	王
4	炎症	慢性炎症の基本病変について	王
5	免疫	免疫と免疫不全について	王
6	アレルギー	アレルギーの分類と自己免疫疾患について	王
7	感染症	感染と感染症、常在菌と日和見感染症	王
8	循環障害	浮腫、うっ血、出血、血栓症について	王
9	循環障害	塞栓症、虚血と梗塞、側副循環、高血圧症、DIC、ショックについて	王
10	代謝異常	脂質代謝異常、タンパク質代謝異常、糖代謝異常、そのほかの代謝異常について	王
11	老化と死	細胞組織の加齢性変化、生命の危機について	王
12	先天異常と遺伝性疾患	遺伝と遺伝子、先天異常、遺伝子の異常と疾患について	王
13	腫瘍	腫瘍の定義と分類、腫瘍の広がりや影響、腫瘍の発生機序、腫瘍の病理診断について	王
14	腫瘍	主な臓器腫瘍の特徴について	王
15	まとめ	授業の振り返り	山本

評価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学 (医学書院)
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
健康障害と治療 I (呼吸器・循環器・血液造血管器)	講義	1単位	30時間	1年後期	内園 知美 小池 正美
実務経験のある教員による科目					

授業概要

既習の呼吸器系・循環器系の構造や機能をふまえ、呼吸器系に特有な健康障害・循環器系に特有な健康障害及び主な症状や治療、検査・処置について学ぶ。呼吸器系では喘息・COPD・呼吸不全、肺感染症、肺腫瘍や胸部外傷等、それに伴う人工呼吸器や胸腔ドレナージ、画像診断について学修する。循環器系では冠動脈疾患・狭心症・心筋梗塞・心不全・心タンポナーゼ等や、心臓カテーテルやペースメーカー、心電図や動脈血酸素分圧について学修する。造血管器系では主な疾患(貧血・出血性疾患・血液のがん等)と検査・治療についても学修する。

到達目標

1. 呼吸器系の主な健康障害(喘息・COPD・呼吸不全・肺感染症・肺腫瘍等)のメカニズムについて説明できる。
2. 呼吸器系の疾患に関連する検査(人工呼吸器・胸腔ドレナージ・画像診断等)について説明できる。
3. 循環器系の主な健康障害(冠動脈疾患・狭心症・心筋梗塞・心不全・心タンポナーゼ等)のメカニズムについて説明できる。
4. 循環器系の疾患に関連する検査(心臓カテーテル・ペースメーカー・心電図・脈血酸素分圧等)について説明できる。
5. 血小板減少症や白血病の発症のメカニズムや治療について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む。
事後学習: 該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	呼吸器系の健康障害と症状・治療・処置①	1) 感染症 2) 間質性肺炎	内園
2	呼吸器系の健康障害と症状・治療・処置②	3) 気道疾患 (1) 気管支喘息 (2) 気管支拡張症 (3) 慢性閉塞性肺疾患	内園
3	呼吸器系の健康障害と症状・治療・処置②	4) 肺血栓塞栓症 5) 呼吸不全 6) 呼吸調節に関する疾患 (1) 過換気症候群 (2) 睡眠時無呼吸症候群	内園
4	呼吸器系の健康障害と症状・治療・処置④	7) 肺腫瘍 8) 肺・肺血管の形成異常 (1) 肺分画症 (2) 肺動静脈瘻	内園
5	呼吸器系の健康障害と症状・治療・処置⑤	9) 胸膜・縦隔・横隔膜の疾患 (1) 胸膜の疾患 (2) 縦郭の疾患 (3) 横隔膜の疾患 10) 肺移植	内園
6	呼吸器系の健康障害と症状・治療・処置⑥	11) 胸部外傷 (1) 肋骨骨折 (2) 横隔膜破裂 (3) 肺損傷 (4) 気管・気管支損傷	内園
7	循環器系の健康障害と症状・治療・処置①	1) 虚血性心疾患	小池
8	循環器系の健康障害と症状・治療・処置②	2) 心不全 3) 血圧異常	小池
9	循環器系の健康障害と症状・治療・処置③	4) 肺血栓塞栓症不整脈 5) 弁膜症 6) 心膜炎	小池
10	循環器系の健康障害と症状・治療・処置④	4) 肺血栓塞栓症不整脈 5) 弁膜症 6) 心膜炎	小池
11	循環器系の健康障害と症状・治療・処置⑤	10) 動脈系疾患 11) 静脈系疾患 12) リンパ系疾患 13) 高脂血症	小池
12	血液・造血管器系の健康障害と症状・治療・処置①	1) 赤血球系の疾患 2) 白血球系の疾患	小池
13	血液・造血管器系の健康障害と症状・治療・処置②	3) リンパ網内系疾患 4) 異常タンパク血症	小池
14	血液・造血管器系の健康障害と症状・治療・処置③	5) 出血性疾患 アレルギー性紫斑病、特発性血小板減少性紫斑病、血栓性血小板減少性紫斑病、血友病	小池
15	血液・造血管器系の健康障害と症状・治療・処置③	血小板機能異常症、ヘパリン起因性血小板減少症、フォンヴィルブラント病 播種性血管内凝固症候群	小池

評価	客観式試験(内園:40点、小池:60点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 血液・造血器 (医学書院)
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
健康障害と治療Ⅱ (消化器・腎泌尿器・生殖器)	講義	1単位	30時間	1年後期	多賀 聡・野村 亮介・蒲池 浩文 飯原 清隆・東 華岳・高村 由紀
実務経験のある教員による科目					

授業概要

既習の人体の構造と機能をふまえ、消化器系・腎泌尿器系・生殖器系の特有の疾患・症状の診断・治療・検査・処置について学ぶ。消化器系の主な疾患(がん・炎症・潰瘍性疾患・イレウス・肝硬変等)や検査(内視鏡検査・腹部超音波・肝生検・放射線検査等)治療について、腎・泌尿器・生殖器系の健康障害の発症のメカニズム・治療・検査・処置について学修する。

到達目標

1. 上部消化管・下部消化管の主な疾患の発症のメカニズムや治療について説明できる。
2. 肝臓・胆道系・膵臓の主な疾患の発症のメカニズムや治療について説明できる。
3. 腎及び泌尿器系の主な健康障害と治療・検査について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む。
事後学習: 該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	消化器系の健康障害と症状・治療・処置①	1) 食道疾患(1)食道がん(2)食道アカラシア(3)逆流性食道炎	多賀
2	消化器系の健康障害と症状・治療・処置②	2) 胃・十二指腸疾患(1)胃炎(2)胃・十二指腸潰瘍(3)胃癌	多賀
3	消化器系の健康障害と症状・治療・処置③④	3) 腸及び腹膜疾患(1)腸炎(2)腹膜炎(3)虫垂炎(4)ヘルニア(5)イレウス 3) 腸及び腹膜疾患(6)腸内寄生虫疾患(7)消化管憩室(8)腸管ポリープ (9)結腸癌、直腸癌(10)肛門疾患	野村
4	消化器系の健康障害と症状・治療・処置⑤	4) 肝臓・胆嚢の疾患(1)肝炎(2)肝硬変症(3)門脈圧亢進症(4)肝臓がん(5)肝外傷 (6)胆石症(7)胆嚢炎および胆管炎(8)胆管がん(9)胆嚢がん(10)胆嚢ポリープ (11)肝寄生虫疾患	蒲池
5	消化器系の健康障害と症状・治療・処置⑥	5) 膵臓の疾患(1)膵炎(2)急性腹症(3)腹部外傷	蒲池
6	腎・泌尿器の疾患①	症状とその病態生理	高村
7	腎・泌尿器の疾患②	検査・治療・処置	高村
8	腎・泌尿器の疾患③	1) 腎不全(1)急性腎不全(2)慢性腎不全	飯原
9	腎・泌尿器の疾患④	2) 原発性糸球体腎炎(1)糸球体腎炎(2)ネフローゼ症候群	飯原
10	腎・泌尿器の疾患⑤	3) 全身性疾患による腎障害4) 尿管間質性腎炎 5) 腎血管性病変(1)腎硬化症(2)腎血管性高血圧症	飯原
11	腎・泌尿器の疾患⑥	6) 尿路損傷および異物7) 尿路結石症8) 尿路・生殖器の腫瘍 9) 発生・発育の異常10) 男性不妊症、勃起障害、男性性器疾患	飯原
12	生殖器系の健康障害と症状・治療・処置①	生殖器の構造と機能、疾患の理解: 病態の生理と診断・検査・治療・処置 女性生殖器疾患: 子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫、子宮体癌、卵巣癌、月経異常、更年期障害	東(華)
13	生殖器系の健康障害と症状・治療・処置②	疾患の理解: 病態の生理と診断・検査・治療・処置 乳腺疾患: 乳腺炎、乳腺症、乳癌	東(華)
14	生殖器系の健康障害と症状・治療・処置③	疾患の理解: 病態の生理と診断・検査・治療・処置 男性生殖器の疾患: 前立腺炎、前立腺肥大、前立腺癌	東(華)
15	まとめ	生殖器系疾患	山本

評価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5] 消化器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8] 腎・泌尿器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[9] 女性生殖器 (医学書院)
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
健康障害と治療Ⅲ (脳・神経・運動器)	講義	1単位	30時間	1年後期	山下 真吾・桑原 浩明・畠山 英嗣・田中 琴子
実務経験のある教員による科目					

授業概要

神経機能障害として脳血管障害や認知症・高次脳機能障害等の発症のメカニズム・治療・検査について、運動機能障害として骨粗鬆症、骨肉腫、変形性関節症、筋ジストロフィー、重傷筋無力症等の発症のメカニズム・治療・検査について学修する。

到達目標

1. 神経機能障害として脳血管障害や認知症・高次脳機能障害等の発症のメカニズム・治療・検査について説明できる。
2. 運動機能障害として骨粗鬆症、骨肉腫、変形性関節症、筋ジストロフィー、重傷筋無力症等の発症のメカニズム・治療・検査について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む。
事後学習: 該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	脳神経疾患総論 脳神経疾患の症状・治療・処置①	脳神経疾患総論 1)脳疾患 (1)脳血管障害	山下
2	脳神経疾患の症状・治療・処置②	1)脳疾患 (2)脳腫瘍 (3)頭部外傷 (4)脳脊髄液(髄液)の異常	山下
3	脳神経疾患の症状・治療・処置③	2)脊髄疾患 (1)脊髄血管障害(2)脊髄炎(3)亜急性連合性変性症等 3)末梢神経障害 (1)糖尿病性ニューロパチー(2)アルコール性ニューロパチー (3)ギランバレー症候群等	桑原
4	脳神経疾患の症状・治療・処置④	4)筋疾患・神経筋接合部疾患 (1)筋ジストロフィー(2)多発性筋炎・皮膚筋炎 (3)ステロイドミオパチー等 5)脱髄・変性疾患 (1)多発性硬化症(2)パーキンソン病等	桑原
5	脳神経疾患の症状・治療・処置⑤	6)脳神経の感染症 (1)脳炎(2)髄膜炎(3)脳腫瘍 7)中毒 (1)アルコール中毒(2)一酸化炭素中毒(3)薬物中毒 8)てんかん (1)おもなてんかんの発作型(2)てんかんの検査と治療	桑原
6	脳神経疾患の症状・治療・処置⑥	9)認知症 (1)アルツハイマー病(2)レビー小体認知症(3)血管性認知症等 10)内科疾患に伴う神経疾患 (1)神経ベーチェット病(2)サルコイドーシス (3)甲状腺機能低下症	桑原
7	まとめ	脳神経系の疾患	桑原
8	運動器の疾患①	運動器の構造と機能	田中(琴)
9	運動器の疾患②	症状とその病態生理	田中(琴)
10	運動器の疾患③	検査と治療・処置	田中(琴)
11	運動器の疾患④	運動器疾患の症状・検査・治療・処置のまとめ	田中(琴)
12	運動器の疾患⑤	1)先天性疾患 (1)筋性斜頸(2)股関節脱臼(3)内反足	畠山
13	運動器の疾患⑥	2)骨折 3)脱臼 4)捻挫および打撲	畠山
14	運動器の疾患⑦	1)骨・関節の炎症性疾患 (1)骨膜炎(2)化膿性関節炎(3)骨・関節結核 (4)変形性関節症(5)関節リウマチ(6)痛風(7)強直性脊椎炎 6)骨腫瘍	畠山
15	運動器の疾患⑧	7)骨系統疾患 8)代謝性骨疾患 9)筋および腱の疾患10)麻痺性折檻 11)上肢・下肢の疾患	畠山

評価	客観式試験 (100点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔7〕 脳・神経 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔10〕 運動器 (医学書院)
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
健康障害と治療IV (感覚器・アレルギー)	講義	1単位	30時間	1年後期	東 淳一郎・東 華岳・西村 靖枝・小池 正美
実務経験のある教員による科目					

授業概要

既習の人体の構造と機能をふまえ、感覚器障害として眼・耳鼻咽喉・歯・口腔・皮膚関連の健康障害の発症のメカニズム・治療・検査について、免疫系(生体防御機能)の特有の疾患・症状の診断・治療・検査・処置について学ぶ。

到達目標

1. 感覚器系の健康障害の主な症状・治療・検査について説明できる。
2. 歯・口腔の主な健康障害と治療・検査について説明できる。
3. 自己免疫疾患やHIVの発症のメカニズムや治療について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む。
事後学習: 該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	眼科の疾患①	眼の構造と機能	東(淳)
2	眼科の疾患②	症状とその病態: 視野機能に関連した症状、視野機能に関連しない症状	東(淳)
3	眼科の疾患③	検査と治療・処置: 視力・屈折検査、眼底・眼圧検査、瞳孔・色覚検査、角膜移植	東(淳)
4	眼科の疾患④	疾患: 機能障害、部位別疾患、加齢黄斑変性、白内障、緑内障	東(淳)
5	耳鼻科の疾患①	耳鼻咽喉の構造と機能	東(華)
6	耳鼻科の疾患②	症状とその病態: 耳に現れる症状、鼻に現れる症状、口腔・唾液腺・咽頭に現れる症状	東(華)
7	耳鼻科の疾患③	検査と治療・処置: 聴力検査、平行機能検査、内視鏡検査、画像検査	東(華)
8	耳鼻科の疾患④	疾患: 耳疾患、鼻疾患、口腔・咽喉頭疾患、気道・食道・頸部疾患と音声・言語障害	東(華)
9	模擬テスト	感覚器系の健康障害と症状・治療・処置 模擬テスト	山本
10	生体防御機能障害①	症状とその病態生理 (アレルギー・膠原病)	西村
11	生体防御機能障害②	検査・治療(アレルギー・膠原病)	西村
12	生体防御機能障害③	アレルギー 呼吸器、消化器、皮膚、薬物、アナフィラキシー	小池
13	生体防御機能障害④	膠原病の理解: 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性硬化症、血管炎症候群、多発性筋炎および皮膚筋炎、混合性結合組織病	小池
14	生体防御機能障害⑤	膠原病類縁疾患: 抗リン脂質抗体症候群、シェーグレン症候群、パーチェット病	小池
15	生体防御機能障害⑥	感染症の理解: 菌血症、敗血症、中枢神経系、頭頸部、呼吸器、消化器、骨盤内、皮膚皮下組織、骨関節、性・尿路、特殊、全身ウイルス	小池

評価	客観式試験(東(淳):30点、東(華):30点、小池:40点)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[13] 眼 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[14] 耳鼻咽喉 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症 (医学書院)
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
健康障害と治療Ⅴ (内分泌・皮膚・歯・口腔)	講義	1単位	30時間	1年後期	立石 康一郎・東 華岳・藤丸 竜哉・平田 昌美
実務経験のある教員による科目					

授業概要

内部環境調節機能障害として糖尿病、脂質異常症の発症のメカニズム・治療・検査・処置について学修する。また、皮膚・歯・口腔に特有な健康障害及び、おもな症状や治療、検査・処置について学修する。

到達目標

1. 内部環境調節機能障害として糖尿病、脂質異常症の発症のメカニズム・治療・検査・処置について説明できる。
2. 皮膚・歯・口腔の機能障害に関する発症のメカニズム・治療・検査・処置について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所を予習して授業に臨む。
事後学習：該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	歯科の疾患①	歯・口腔の構造と機能	立石
2	歯科の疾患②	症状とその病態：痛み、腫脹、口腔出血、顎口腔機能障害 検査と治療・処置：歯と歯周組織の検査、嚥下機能検査、口腔乾燥検査、言語機能検査、味覚検査、画像検査、保存治療、口腔外科治療他	立石
3	歯科の疾患③	疾患：齲歯及び歯髄疾患、口腔領域の炎症・腫瘍、顎関節症、唾液腺の疾患	立石
4	皮膚科の疾患①	皮膚の構造と機能	東(華)
5	皮膚科の疾患②	症状とその病態（発疹、かゆみ、皮膚の老化） 検査と治療・処置：皮膚科的検査、病原微生物検査法、手術療法、光線療法、レーザー療法、放射線療法	東(華)
6	皮膚科の疾患③	疾患：表在性皮膚疾患、腫瘍および色素異常症、感染症 等	東(華)
7	模擬テスト	歯科、皮膚系の健康障害と症状・治療・処置 模擬テスト	倉元
8	内部環境調節機能障害と症状・治療・処置①	内分泌器官とホルモンの機能・代謝の機能と概要 検査：ホルモン血中濃度測定、ホルモン負荷試験、尿中定量測定、血液検査等	藤丸
9	内部環境調節機能障害と症状・治療・処置②	内分泌系の疾患：視床下部 下垂体前葉系疾患、下垂体後葉系疾患	藤丸
10	内部環境調節機能障害と症状・治療・処置③	内分泌系の疾患：甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患	藤丸
11	内部環境調節機能障害と症状・治療・処置④	内分泌系の疾患：性腺疾患、消化管ホルモン産生腫瘍、内分泌疾患の救急治療	藤丸
12	内部環境調節機能障害と症状・治療・処置⑤	代謝異常の疾患：糖尿病	平田
13	内部環境調節機能障害と症状・治療・処置⑥	代謝異常の疾患：メタボリックシンドローム、肥満症	平田
14	内部環境調節機能障害と症状・治療・処置⑦	代謝異常の疾患：脂質異常症、尿酸代謝異常	平田
15	まとめ	授業の振り返り	倉元

評価	客観式試験（100点）
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔15〕 歯・口腔（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔12〕 皮膚（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝（医学書院）
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
健康障害と治療VI (麻酔・放射線療法)	講義	1単位	15時間	2年前期	小川 圭・大栗 隆行
実務経験のある教員による科目					

授業概要

既修の人体の構造と機能、病理学、微生物学などの学修内容と関連させながら、麻酔法の種類や特徴、術中の管理について学ぶ。近年、放射線治療の進歩も目覚ましいものがある。これら最新の外科的治療について学修する。

到達目標

1. 全身麻酔・局所麻酔について概要を説明できる
2. 麻酔における術前・術中・術後の観察ポイントを説明できる
3. 放射線治療の特徴と防御について説明できる

事前学習・事後学習

事前学習：該当箇所について調べて授業に臨む
事後学習：該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	麻酔法①	麻酔とは、麻酔の種類(全身麻酔、局所麻酔)と特徴	小川
2	麻酔法②	術中管理(術中の呼吸管理、体液管理)	小川
3	麻酔法③	小児の麻酔の特徴、高齢者の麻酔の特徴	小川
4	まとめ	麻酔法	平木
5	放射線療法①	放射線とは、放射線治療の特徴・目的、放射線障害と防御	大栗
6	放射線療法②	放射線治療の適応と治療法(脳腫瘍、肺がん、食道・直腸がん、乳がん、子宮がん他)	大栗
7	まとめ	放射線療法	大栗
8	まとめ	授業の振り返り	平木

評価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学(医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院)
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
微生物学	講義	1単位	30時間	1年前期	下川 修
実務経験のある教員による科目					

授業概要

感染症は医学上もっとも重要な疾患の一つである。最近では新型コロナウイルスによる感染が世界を震撼させ、生活スタイルまでもが変化を余儀なくされ、さらに新たな病原体による感染症や院内感染などが社会的に危惧されている。病原体の種類とこれらがどのようにヒトと関わり感染症を引き起こすのかについて学ぶ。さらに感染症の予防および制御の重要性と方法を理解しこれらの知識を活かして、看護の現場で感染症に対して適切に対応できるように学修する。

到達目標

1. 感染のメカニズムについて説明できる。
2. グラム陽性菌・陰性菌、ウイルスの特性について説明できる。
3. 感染予防について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む
事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	微生物学とは	微生物とは 微生物学への入門	下川
2	感染症と病原体①	細菌の性質(大きさ・形態・構造・増殖等)	下川
3	感染症と病原体②	ウイルスの性質(大きさ・形態・構造等)	下川
4	感染症と病原体③	原虫・真菌の性質(特徴)	下川
5	感染とは	感染と発症(発病)	下川
6	感染防御機構①	免疫(アレルギー・自己免疫疾患を含む)	下川
7	感染防御機構②	免疫のまとめ・感染の予防	下川
8	感染・発症予防	滅菌・消毒・標準予防策等	下川
9	感染の検査・治療	化学療法剤(薬剤耐性を含む)	下川
10	細菌学各論①	グラム陽性菌	下川
11	細菌学各論②	グラム陰性菌	下川
12	細菌学各論③	スピロヘーター・マイコプラズマ・リケッチャ・グラミジア	下川
13	ウイルス学各論	DNAウイルス・RNAウイルス	下川
14	真菌・原虫学各論	真菌・原虫学各論 まとめ	下川
15	まとめ	授業の振り返り	下川

評価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学 (医学書院)
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
薬理学	講義	1単位	30時間	1年後期	末永 拓也・原 知斉
実務経験のある教員による科目					

授業概要
多数の薬が使用されている臨床の現場では、薬の特徴や作用を理解することは看護師にとって非常に重要である。①薬物の体内動態と作用部位、②薬物の作用機序と薬理作用(どうして薬が効くのか)、③薬物の臨床適用(どのような効果を示すか)、④薬物の副作用とその対策(副作用の出現を察知し、看護師としてどう対応するか)、以上について薬理学の基礎知識と薬物治療の基本について学修して看護に活かせるようにする。

到達目標
1. 医薬品が人体に作用する仕組みを説明できる。 2. 抗がん剤の作用、副作用について説明できる。 3. 脳・中枢神経系疾患で用いられる薬の作用、副作用について説明できる。 4. 予防接種の作用、副反応について説明できる。 5. 代謝機能障害で用いられる薬の作用、副作用について説明できる。 6. アレルギー・免疫不全状態で使用する薬の作用、副作用について説明できる。

事前学習・事後学習
事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む 事後学習: 該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎				

回数	単元	内容	担当教員
1	医薬品総論①	医薬品総論 医薬品とは	原
2	医薬品総論②	医薬品総論 薬が作用する仕組み(薬力学)	原
3	医薬品総論③	医薬品総論 薬物の吸収・薬物有害反応	原
4	医薬品総論④	医薬品総論 医薬品に関する法律・適正な使用に向けて	原
5	がん・痛みに使用する薬	抗がん剤・免疫抑制剤・疼痛ラダー・オピオイド・NSAIDs	原
6	脳・中枢神経系疾患で使用する薬	抗てんかん薬・パーキンソン治療薬・向精神薬等	原
7	感染症に使用する薬	消毒薬・予防接種薬等	末永
8	救命時に使用する薬	救命救急時に使用する薬	原
9	アレルギー・免疫不全状態の患者に使用する薬	呼吸器疾患に使用する薬・関節リウマチに使用する薬等	末永
10	消化器疾患に使用する薬	潰瘍・下痢・肝臓等疾患に使用する薬等	末永
11	その他症状に使用する薬①	代謝機能障害・内分泌障害等	末永
12	その他症状に使用する薬②	血液・造血器障害・腎機能障害等	末永
13	物質代謝に作用する薬	物質代謝・皮膚科・眼科に使用する薬	原
14	漢方薬	漢方薬	原
15	まとめ	授業の振り返り	原

評価	客観式試験 (100点)
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 (医学書院)
参考図書等	系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 (医学書院)
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
臨床推論	講義 演習	1単位	30時間	2年前期	伊藤 七重・倉元 聖子・平木 祥子・阪元 利恵
実務経験のある教員による科目		臨床(病院等)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行う			

授業概要

看護師は、健康課題を持つ対象者を全人的にとらえ、健康の保持・増進に努めなければならない。その中でも、急性発症した対象者に対して全人的ケアを提供するためには、対象が示す症状や状態から今どのようなことが起こっているのか筋道を立てて推測していく、臨床推論の概念が重要である。事例を用いて臨床推論の能力を高めていくことは、健康課題を持つ対象者とその家族の健康の保持と健康の質に関わる重要な力となる。

到達目標

1. 臨床推論の思考過程について説明できる。
2. 成人期の特徴を踏まえ事例の症状から健康障害や関連する内容を推測し、根拠をもって説明できる。
3. 老年期の特徴を踏まえ事例の症状から健康障害や関連する内容を推測し、根拠をもって説明できる。
4. 小児期の特徴を踏まえ事例の症状から健康障害や関連する内容を推測し、根拠をもって説明できる。
5. 訪問看護事例から在宅での健康障害や関連する内容の推測や、トリアージについて説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習: 該当箇所について調べて授業に臨む
事後学習: 該当テーマに沿って講義から復習・まとめを行う

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○					

回数	単元	内容	担当教員
1	臨床推論	ガイダンス 臨床推論の思考過程	伊藤
2	成人事例①	成人の事例 40代男性 呼吸困難のある患者	伊藤
3	臨床推論①	臨床推論したことをグループ討議(マインドマップ) IBL学習	伊藤
4	成人事例②	成人の事例 50代男性 胸痛のある患者	伊藤
5	臨床推論②	臨床推論したことをグループ討議(マインドマップ) IBL学習	伊藤
6	急性症状③	行き倒れて打撲、出血、発熱で救急救命室に搬送された患者	伊藤
7	臨床推論③	臨床推論したことをグループ討議(マインドマップ) IBL学習	伊藤
8	老年事例④	老年の事例 70歳代 女性 意識障害をきたしている	倉元
9	臨床推論④	臨床推論したことをチーム間ディスカッション IBL学習	倉元
10	小児事例⑤	小児の事例 5歳 男児 発疹が急に出現した	平木
11	臨床推論⑤	臨床推論したことをチーム間ディスカッション IBL学習	平木
12	訪問事例⑥	老老介護の訪問時に発生した転倒を発見	阪元
13	臨床推論⑥	臨床推論したことをチーム間ディスカッション IBL学習	阪元
14	在宅事例⑦	訪問看護中に発生した急性発症時のトリアージ(脱水)	阪元
15	臨床推論⑦	臨床推論したことをチーム間ディスカッション IBL学習	阪元

評価	客観式試験(伊藤:100点)
テキスト	
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
カウンセリング論	講義	1単位	15時間	2年後期	神崎 保孝
実務経験のある教員による科目					

授業概要

医療の世界において、対象者との間に治療的な人間関係を築くことは、対人援助の原則であり本質である。本科目では、カウンセリングの構造・倫理・適応・経過・理論・技法などを網羅的に学ぶ。カウンセリングの意義や過程に係る学びを通して、看護におけるカウンセリングを援用した対人援助の重要性について理解し、看護実践へ適用できるように学修する。

到達目標

1. カウンセリングの意義や過程について説明することができる。
2. カウンセリングに用いられる理論や技法について説明することができる。
3. 看護におけるカウンセリングを援用した対人援助の重要性について自分の意見を述べるすることができる。

事前学習・事後学習

事前学習:各講義で取り扱う内容について自主的な予備学習を行う
 事後学習:当日の講義内容を基に看護実践への適用を検討する

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			◎			○

回数	単元	内容	担当教員
1	総論	カウンセリングの概論	神崎
2	総論	カウンセリングの構造と倫理	神崎
3	総論	カウンセリングの適応と経過	神崎
4	各論	カウンセリングの理論と技法:PCAなど	神崎
5	各論	カウンセリングの理論と技法:精神分析など	神崎
6	各論	カウンセリングの理論と技法:認知行動療法など	神崎
7	各論	カウンセリングの理論と技法:応用行動分析など	神崎
8	まとめ	授業の振り返り	平木

評価	客観式試験(100点)
テキスト	山蔦圭輔『メディカルスタッフのための基礎からわかるカウンセリングと心理療法』南山堂
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
リハビリテーション概論	講義	1単位	15時間	2年前期	中村 淳一・平岡 航平・吉田 裕美・長友 慧・加来 遥平・黒田 隼平・馬渡 亜樹子・杉本 将樹
実務経験のある教員による科目					

授業概要

医療の高度化により死亡率は低下した反面、障害をもちながら生活する人は増加している。高齢化もそれを助長している要因となっている。障害をもつ人々の生活の質を高めるリハビリテーションの概念は、当事者およびその家族にとって重要である。リハビリテーションにおける看護は対象である人間を、健康障害や障がいをもちながらも生活者としてとらえ、その人らしく生きることを支援し生活の質(QOL)を高めていけるように援助することにある。リハビリテーションの必要な人を支援するための基礎的知識として、リハビリテーションの定義や歴史、倫理、種類およびリハビリテーションに関連する概念や、看護におけるリハビリテーションについて学修する

到達目標

1. リハビリテーションとは何か説明できる
2. リハビリテーションの種類と特徴を説明できる
3. 看護におけるリハビリテーションについて説明できる
4. リハビリテーションの対象を生活者としてとらえるICFについて説明できる

事前学習・事後学習

事前学習:授業に該当する箇所は予習して授業に臨む、各単元で学びたいことを明らかにし、自ら学習目標を立てて望む
事後学習:授業を振り返り各単元において事前学習で立てた目標を評価し、疑問を解決する

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○		◎	

回数	単元	内容	担当教員
1	リハビリテーションとは	ガイダンス リハビリテーションの歴史・定義、障害とは、リハビリテーションにおける倫理、法律、施策、障がいの権利、法律とサービス	中村
2	リハビリテーションの分野	リハビリテーションの分野、理学療法士から見たリハビリテーション、作業療法士から見たリハビリテーション	平岡
3	リハビリテーション看護①	リハビリテーション看護とは、リハビリテーション看護の対象	吉田
4	リハビリテーション看護②	急性期のリハビリテーション看護、回復期のリハビリテーション看護	長友
5	リハビリテーション看護③	生活再構築期のアセスメント、生活期(維持期)のリハビリテーション	加来
6	リハビリテーション看護④ (事例で考える)	事例と片麻痺体験を通しアセスメント、援助方法(セルフケアの援助を中心に)について考える	黒田
7	地域におけるリハビリテーション	地域におけるリハビリテーション(地域の取り組み例)、チーム医療と看護	馬渡
8	まとめ	授業の振り返り	杉本

評価	
テキスト	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 (医学書院)
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
現代医療論	講義	1単位	15時間	1年前期	矢野 公一
実務経験のある教員による科目					

授業概要

現代は少子高齢化、格差の問題、新たな感染症による生活や医療への影響や、病院中心の医療から地域医療へのシフトなど、大きく変化している。国民の健康や医療に関する認識も変化している。医療の高度化・複雑化は「命」に対する新たな問題も提起している。これらに対して医療に関わる我々はどうのように考えていけばいいのか論じる。

到達目標

1. 医療の変遷について説明できる。
2. 現代医療の諸問題について自分の考えを述べるができる。

事前学習・事後学習

事前学習: 課題について予習して授業に臨む。
事後学習: テーマについて振り返りを行う。

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	◎					

回数	単元	内容	担当教員
1	医療の歩みと医療観の変遷	医療の歩みと医療観の変遷 人類史・科学史・医学史	矢野
2	科学技術の進歩と現代医療の最前線	現代医学と先端医療技術 がん診療、移植医療、人工臓器開発、体外受精と出生前診断、再生医療、画像診断	矢野
3	医療と人道支援	中村哲医師に学ぶ人道支援	矢野
4	現代医療の諸問題①	現代医療の課題 先端医療がもたらす倫理上のジレンマ、生命倫理について	矢野
5	現代医療の諸問題②	脳死と臓器移植について	矢野
6	現代医療の諸問題③	体外受精、出生前診断、人工妊娠中絶、人は死を選べるのか	矢野
7	インフォームドコンセント	インフォームドコンセントと医療情報の開示、なぜ医療不信は起こるのか	矢野
8	まとめ	授業の振り返り	山本

評価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 別巻 総合医療論 (医学書院) 系統看護学講座 専門基礎 医療概論 (医学書院)
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
食事療法	講義	1単位	15時間	2年前期	一番ヶ瀬 玲・古谷 優佳
実務経験のある教員による科目					

授業概要

食生活が人間の健康や病気に与える影響が大きいことはよく知られています。ライフスタイルのひとつである個々の食習慣は、生活習慣病の要因として重要な地位を占め、健康のレベルに大きく関与し結果として生活の質にも影響します。将来看護師としてより効果的な援助者となるために、既修の栄養代謝学の学修内容と関連させながら、ライフステージや健康障害の種類に沿った食事療法の知識の修得を目指します。健康課題がある対象に食生活の面からアプローチできるようになるために学び、対象者の生活の質の向上に活かせるように学修します。

到達目標

- 人間にとって食事の意味や、栄養食事療法の概要について説明できる。
- 栄養アセスメントの基本について説明できる。
- 各疾病と栄養との関連性を理解し、看護上の注意について説明できる。
- 在宅患者の栄養管理、栄養サポートチームの実際について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習: 事前学習: 該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○			◎	

回数	単元	内容	担当教員
1	栄養食事療法とは	人間にとって食事の持つ意味や特性、栄養食事療法の概要	一番ヶ瀬
2	ライフサイクルと栄養 食物アレルギー 日本人の食事摂取基準	乳幼児期から老年期における栄養、食物アレルギー日本人の食事摂取基準 (エネルギー・たんぱく質・脂質・等) 栄養アセスメントの基本 栄養状態の評価・判定	古谷
3	循環器疾患患者の栄養食事療法	疾患と栄養の関連性を概説(高血圧 心不全 脳血管障害)	一番ヶ瀬
4	消化器疾患・がん患者の栄養食事療法等	疾患と栄養の関連性を概説(胃がんの分割食や低栄養時の援助 肝・胆・膵の障害) がん治療における栄養食事療法	古谷
5	腎・泌尿器疾患患者の栄養食事療法	疾患と栄養の関連性を概説(腎疾患 泌尿器疾患)	一番ヶ瀬
6	内分泌・代謝疾患患者の栄養食事療法	疾患と栄養の関連性を概説(糖尿病 糖尿病の交換表の利用 高尿酸血症)肥満 やせ	古谷
7	在宅患者の栄養管理、栄養サポートチームの実際	食欲不振の患者の栄養管理、NSTにおけるチーム医療の実際 看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院	一番ヶ瀬
8	まとめ	授業の振り返り	平木

評価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 (医学書院)
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
公衆衛生学	講義	1単位	30時間	2年前期	喜多村 絃子
実務経験のある教員による科目					

授業概要
公衆衛生学は生活の質を向上させるために、みんな(国民)の健康をみんなで守る保健医療の組織的な営みである。そのためには個々の健康の保持増進が大切になる。日本は「健康日本21」構想が進められ、健康への関心は高まっている。健康やヘルスプロモーションの概念について学び、さらに地域保健福祉活動の実際を学ぶ。具体的にはヘルスサービスの構造と今後の社会変化を踏まえたヘルスサービスの方向について、母子保健・学校保健の歴史と現状及び課題、国民的な問題である生活習慣病と健康増進法について、難病とその医療費助成や医療体制、健康対策と健康対策とヘルスプロモーションの進め方、産業保健では労働環境について学び、環境と健康の関係や施策、社旗の変化に伴う諸問題について洞察し、人々の健康に寄与できるように学修する。

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康を保持・増進させるための社会的施策の変遷について理解し説明できる。 2. 人の健康を集団でとらえ、疫学的視点から理解するために、疫学の基礎的手法を理解し説明できる。 3. 日々の生活と自分達をとりまく環境の係わりを理解し、環境問題について説明できる。 4. 母子保健・学校保健・成人保健・高齢者保健等の人の生涯を通じた保健衛生上の問題点を理解するとともに、それぞれに関連した法令・制度について理解できる。 5. 感染症動向について理解し、その対策について列記できる。

事前学習・事後学習
事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	○		◎	

回数	単元	内容	担当教員
1	公衆衛生の概念	公衆衛生の概念・定義・歴史	喜多村
2	公衆衛生のしくみ	公衆衛生の活動対象、公衆衛生のしくみ	喜多村
3	公衆衛生と疫学・保健統計	公衆衛生における疫学、保健統計学	喜多村
4	環境と健康	地球規模の環境と健康、身の回りの環境と健康	喜多村
5	感染症対策	感染症とその予防	喜多村
6	国際保健	国際保健	喜多村
7	母子保健	母子保健	喜多村
8	成人保健	成人保健	喜多村
9	高齢者保健	高齢者保健	喜多村
10	精神保健	精神保健	喜多村
11	歯科保健 障害者・難病対策	歯科保健・障害者・難病対策	喜多村
12	学校保健	学校保健	喜多村
13	産業保健・災害保健	産業保健・災害保健	喜多村
14	健康教育とヘルスプロモーション	健康教育とヘルスプロモーション(教育資料作成)	喜多村
15	健康教育とヘルスプロモーション	健康教育とヘルスプロモーション(プレゼンテーション)	喜多村

評価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生学 (医学書院) 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
社会福祉学	講義 演習	1単位	30時間	2年前期	坂本 毅啓
実務経験のある教員による科目					

授業概要
人間は誕生から死まで生活していくのに、個人や家族の努力だけでは対応できない困難な状況に直面する。そのようなときに最低生活を保障する公的な制度が社会保障制度であるが、それぞれの社会で歴史的に形成されてきた制度であり、その意味は時代や社会によって異なる。本科目では社会福祉の思想、理論、制度、支援などの基礎について学ぶ。また、ヒューマンサービスに携わる者としての倫理と人間の尊厳の尊重を基礎においた生活支援についても学び、地域や医療現場における保健・医療・福祉の連携について考え、実践できるようになるための基礎知識の修得をめざす。

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の理念と意義について説明できる 2. 社会福祉の対象とICFの考えに基づいた支援の形態及び方法について説明できる 3. 社会保障と社会福祉サービス体系の概要について説明できる 4. 社会福祉をめぐるわが国および諸外国の動向について説明できる 5. 地域の高齢化および地域包括ケアの必要性について述べる事ができる

事前学習・事後学習
事前学習: 該当箇所を予習して授業に臨む 事後学習: 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○		◎		

回数	単元	内容	担当教員
1	生活と福祉	なぜ福祉を学ぶのか、生活基盤、ライフスタイル、人間集団としての働き	坂本
2	社会保障の概念と歴史	社会保障とは何か、日本の社会保障の構成、歴史的発展、社会保障の財政	坂本
3	わが国の社会保障制度①	医療保険制度、高齢者医療制度、医療提供体制と国民医療費	坂本
4	わが国の社会保障制度②	介護保険制度	坂本
5	わが国の社会保障制度③	年金保険制度、労働保険制度	坂本
6	社会福祉の歴史	慈善事業から福祉国家まで(精神医療、障がい者医療の歴史を含む)ICF	坂本
7	現代社会における貧困	子どもの貧困(その原因と支援策)、ホームレス(その原因と支援策)	坂本
8	社会福祉の諸制度と施策①	生活保護(医療扶助を含む)、無料定額診療、低所得者への支援策	坂本
9	施策②	障がい児・者への福祉施策、障がい者差別解消法と地域ケア	坂本
10	施策③	地域で生活する高齢者の支援、認知症ケア、ターミナルケア、地域包括ケアシステム	坂本
11	世界の社会福祉	グローバリズムと環境問題、難民、女性、民族の問題	坂本
12	グループプレゼンテーション①	準備	坂本
13	グループプレゼンテーション②	地域調査で社会福祉を学ぶ	坂本
14	グループプレゼンテーション③	プレゼンテーション	坂本
15	まとめ	授業の振り返り	坂本

評価	客観式試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 (医学書院)
参考図書等	
留意事項	

授業科目名	授業形態	単位	時間数	配当年次	担当教員
看護関係法規	講義	1単位	15時間	3年前期	鎌田 厚志
実務経験のある教員による科目					

授業概要

看護に従事する者が、国民の健康を守り、職責を正しく遂行するために法律の知識は重要になる。看護実践は業務上多くの法律に関係しており、看護サービスを提供する際は基盤となる看護関係法令を理解しておくことが不可欠になる。既習の法律学を基盤として職務を遂行するための根拠や判断基準として、看護職に関連する法律について学修する。

到達目標

1. 看護職に関連する法規(医事法 薬務法 保健衛生法他)を理解する。
2. 保健師助産師看護師法について説明できる。

事前学習・事後学習

事前学習:事前学習:各課題について調べて授業に参加する
事後学習:テーマに沿って復習する

対応ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○				◎	○

回数	単元	内容	担当教員
1	第1章 法の概念	法規と厚生行政	鎌田
2	第2章 看護法	保健師助産師看護師法	鎌田
3	第2章 医事法	医師法・医療法	鎌田
4	第5章 薬務法	薬務法・医療関係資格法	鎌田
5	第4章 保健衛生法	保健衛生法—感染症法、母子保健法、精神保健福祉法	鎌田
6	第7章 社会保険法	社会保障法—医療保険制度、介護保険法	鎌田
7	第8章 福祉法 第9章 労働法と社会基盤整備 第10章 環境法	その他の法律—障害者総合支援法、労働基準法、廃棄物処理法	鎌田
8	評価	終講試験	鎌田

評価	客観試験(100点)
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令 (医学書院)
参考図書等	
留意事項	